

「観光による地域活性化のための滞在型観光施設整備に関する調査研究」

茨城県石岡市

調査研究報告書 概要

茨城県石岡市では、地域振興の一環としてこれまでに様々な観光政策に取り組んできた。その一方で、石岡市への来訪者の約9割は日帰り客である。その要因として、首都圏からの比較的容易なアクセス、石岡市の観光資源の分散、限られた宿泊施設数などが挙げられる。また、同市八郷地区にある国民宿舎「つくばね」の老朽化、それに伴う多額の財政負担が問題となっており、早急な改善策が求められている。これらの点から、石岡市では今後も宿泊機能を持った観光施設が必要とされているが、財源が限られていることから、県内外の事業者との連携を視野に入れた施設整備が考えられている。

以上の背景から、本調査研究は、滞在型観光施設整備のためのサウンディング調査に向けた基礎調査と位置付けられ、「茨城県フラワーパーク」隣接地及び「やさと温泉ゆりの郷」隣接地の市内2か所の候補地の基本構想を検討し、事業収支試算を提示することを目的とする。以上の目的のために、本調査研究では、候補地近隣施設の来訪者アンケート、事業者ヒアリング、先進事例調査を行った。

候補地近隣施設の来訪者アンケートでは、フラワーパーク及びゆりの郷の各来訪者約100名を対象に、対面式アンケートを実施した。本アンケートでは、来訪動機・目的、宿泊の実態、新たな滞在型観光施設に関するニーズ等を調査した。結果として、滞在型観光施設に対する一定程度のニーズや体験プログラムへのニーズが明らかになった。

事業者ヒアリングでは、茨城県内外の事業者を対象に、施設のニーズ・市場性・成長性、アイデア、整備に当たっての課題等の聞き取りを行った。両事業者の回答の共通点として、県外からの来訪者を中心とした宿泊のニーズ、石岡市の自然を活かした体験プログラムの提供といったアイデア等が明らかになった。また、施設整備に当たって、人材育成・募集、平日の集客方法、交通手段の充実等の課題が確認された。

先進事例調査では、栃木県益子町のホテル型の公共宿泊施設「フォレストイン益子」と国内の民間グランピング施設を分析対象とした。フォレストイン益子は、宿泊に特化した必要最低限のサービス提供が特徴であり、民間グランピング施設は、手軽で豪華なアウトドア体験といったグランピングの趣旨から、多様なサービスを用意している。このように、サービス提供の方向性は異なるものの、両施設共に工夫を重ねた結果、多くの利用者を獲得していることが明らかになった。

最後に、フラワーパーク隣接地及びゆりの郷隣接地の事業構想と事業収支試算を提示し、施設整備の際の両候補地の課題を比較した。その上で、各候補地における滞在型観光施設の事業成功の可能性と課題についてまとめた。